

どうとく の ひろば

No.18

テーマ
「学校ぐるみで道德を」

こころのひろば

【共に、生きる。】 [滝川クリステル]

特集

【ローテーションTT道德授業】のすすめ [坂井親治]

見てわかる！ 道德

【友情、信頼】

【よりよい学校生活、集団生活の充実】

[越智 貢, 奥田太郎, 上村 崇]

実践事例

小学校 心を揺さぶる教材との出会い
～教材「いのりの手」の実践を通して～
[市倉 尚]

中学校 仲間と考え、議論することで
深まる道德授業の実践
[冲山篤史]

こんなとき、どうする？

【道德と国語はどこが違うの？】

[尾高正浩, 澤田清人, 椋木香子]

地球の仲間からのメッセージ

【動物園の使命】 [長瀬健二郎]

本資料は、「教科書発行者行動規範」に
則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索



未来をになう子どもたちへ

日本文教出版 / 秀学社

こころのひろば

「共に、 生きる。」

< 後編 >



フリーアナウンサー、
「クリステル・ヴィ・アンサンブル」
代表理事

滝川クリステル

プロフィール

1977年 フランス生まれ。
青山学院大学文学部卒業。
2002～2009年 フジテレビ『ニュース JAPAN』
のメインキャスターを経てフリーに。
WWF（世界自然保護基金）ジャパン顧問、世界の
医療団 親善大使を務める。
2013年 フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受
章。
東京2020オリンピック・パラリンピック招致活動
に貢献。
2014年 アニマルウェルフェアに則った犬猫の殺
処分ゼロを目的に「一般財団法人クリステル・ヴィ・
アンサンブル」を設立し、殺処分される犬や猫を
減らす活動に力を入れている。

【一般財団法人クリステル・ヴィ・アンサンブル】
<http://www.christelfoundation.org/>

目標を達成するために、どのように信念を貫けばいい
のか。前号に引き続き、滝川クリステルさんにその
方法を教えていただきました。

—「クリステル・ヴィ・アンサンブル」の活動中に 印象に残ったエピソードはありますか？

子どもたちの反応ですね。実は私に会いたがる子
どもたちが多くて。小中学校、高校生の子たちの「講演
に来てください。」という話とは別に、個人的に。た
とえば友人の子どもたちが私の活動を知って、一人で
募金活動をしたり、何かを作ってそれをお金にして、
「これを猫ちゃん、犬ちゃんに使ってください。」と
私のところに持ってきたり。そういう子どもがたくさん
いるのは素直にうれしいですね。

—子どものほうが大人よりも敏感ですか？

敏感ですね。今まで現実を知らなただけで、知っ
たときの彼らの行動力はすごいですね。大人のような
「どうしよう。」がないんですよ。素直に感情のまま
に、「これ以上殺しちゃいけない。」っていうシンプ
ルな答えが彼らの中にあるので。そこに私はすごく希
望を持っています。一方、伝えて知ってもらうことで、
こんなに純粋に動く子たちがいるわけだから、やっぱ
り「知らせないこと」はひとつ道を塞いでいるんだな
と思います。

—子どもを見習わないといけないですね。

本当にそう思います。大人は「わかっていても動けない」という人がほとんどだと思うので。

—「わかっていても動けない」大人にはどういうことが必要だと思いますか？

大人は「何をしたいかわからない。」というのが一番多いですね。パソコンやテレビで情報が得られる時代に、何もできないなんて言い訳をしているように見えちゃう。

大人に必要なもの。それは勇気かもしれませんね。

私も最初はいろいろあったんですけど、最後は自分は何をしたいかですよ。純粋に「動物たちを助きたい。」と思ったから動いたんですね。

けっして動物が大好きだとか感情的なものではなくて、このままじゃ教育的にもよくないんじゃないかとかも思いましたし。

—「小さいころから犬とか猫とかが好きだった」からかと思っていましたが、そういうものとは違う思いで活動されているんですね？

逆に、そういう感情だけだったらちょっと難しいと思うんですね。感情的になってしまうことが多い問題ですから。声を出せない生き物を助けるために人間が声を出さないといけないという思いが強すぎると、敬遠されてしまったり、ヒステリックになってしまったりするので、そこは感情をコントロールして冷静にならないといけないと思うんです。むしろ中立の人がこういう問題をやるのが大事で、冷静に対処することも必要ですし、自分もなるべくそういうふうになり振る舞いたいと心がけています。

—自分の信念をしっかりと貫いていくということについても、小・中学生にメッセージをお願いします。

信念ですか……。いかにぶれないかが本当に大事で、それはすごく難しいことだと思うんですね。

あと、しつこくあること(笑)。「しつこい」ってすごく嫌な言葉に聞こえますけど、私はこの活動をしつこくやっているんですよ。「続けている。」って言えばいいんですけど、「しつこく」って言ったほうがインパクトありますよね。とにかく10年もこの課題をやっていますから、しつこいですよ、やっぱり。(笑)

—10年もされているんですか？

やっていますね。形は変わりましたが、訴え続けています。やっと今、いろんな方が動いてくださるようになってきました。10年前はそんなこと皆無でした。そういう意味ではすごく変わってきたなあって思

います。

子どもたちにはしつこさが悪いこととは思わせたくないなと。性格という問題じゃなくて、物事や行動に対してしつこくあれ、という気持ちですね。

—「しつこい」って悪い言葉みたいですけど、そうじゃないんですね。

アーティストや職人の皆さんはしつこいですよね。しつこく追求する。しつこさがあって信念を貫いてらっしゃるから、悪い言葉ではないんじゃないかなと思って。

—最初に2020年を目標に認知度を広げたいとおっしゃいましたが、今はどんな感じですか？

私たちが目指すところに近づけてはいますが、自分の仕事と二足のわらじでやっているもので……。

思うようなスピードで動かすまではいけてないんですけど、人々に伝わっていることは実感しています。そこは財団を立ち上げてよかったなあと。いろんな方に「こういう財団を立ち上げている。こういう問題があるんだ。」と理解してもらって、解決していこうという流れにつながっていったらいいなと思っています。

—そうなんですね。今後のご活躍をお祈りしています。本日はありがとうございました。



学校全体で組織的に取り組む中学校における道徳科授業

「ローテーションTT道徳授業」のすすめ

～担任の負担軽減とよりよい道徳科授業構築のために～

愛媛県道徳委員会顧問 西条市立河北中学校 前校長 坂井親治

1. 中学校での道徳授業の課題

道徳の教科化を目前にして、中学校で道徳の授業は「何」をどのように意識して行えばよいか。

学習指導要領改訂によって求められている「考え、議論する道徳」「アクティブ・ラーニング」「評価」等への取り組みを、担任だけに任せるには限界がある。また、昨今指摘されている「学校の多忙化」の中で、新しい取り組みの研究の時間を捻出するのは、多くの教員の過重負担となる。

そこで、中学校における道徳授業実施上の課題を明らかにし、解決方法を模索した中から効果的であった実践を紹介する。

まず、道徳の授業について、教師の実態の把握をアンケート形式で行うと、以下のような結果となった。

中学校の特性上の道徳に関する課題

(勤務校道徳プロジェクト分析による)

- 「生徒指導・部活動・進路指導」といった、目に見えて必要性があると感じることを優先する。
- 道徳教育を充実させることによって効果が得られるという認識はあまり見られない。
- 校長・教員自身が道徳の授業をあまり受けていない。また、授業を十分実施してきていない。
- 道徳の授業を行う意識が低い。
- 道徳の授業の仕方がわからない。
- 生徒も道徳はつまらないと思っている。
- 担任が関わる授業が限られているため、道徳授業を諸活動の準備の時間などに振り替える。

教師が道徳の授業を躊躇する理由

- 授業方法が分からない。 ○自信がない。
- 道徳の授業を教師自身が楽しいと感じない。
- 準備に時間がかかる。
- 指導効果を実感しない。
- 話し合いがうまくいかない。
- 他にすることがたくさんある。
- 授業をしなくても道徳性は育つ。

そこで、道徳の授業の課題を解決するために、次の3点を研究の重点目標に掲げた。

- ①教師の授業力の向上
- ②道徳の授業時数の確保
- ③生徒が心待ちにする道徳の授業の実施

そして、重点目標を具現化するために、以下の3点の内容を教職員が共通理解した上で、実施することにした。

- ①複数教員による道徳の授業の実施
- ②道徳プロジェクトチームの設定
- ③生徒の道徳係の設置

※時間割編成の際、学校行事、諸活動など必要時数は、教務主任が操作し、各学年で実施時間等の偏りがないように留意する。

2. 複数教員による道徳の授業の実施

複数教員による道徳の授業には、次の3つの体制が考えられる。それぞれを実施して、生徒や教師の意見を聞き、メリットとデメリットを検証し、効果的な体制を継続して実施することにした。

(1) 複数教員の指導体制

①学級担任TT型

学級担任がT1、副担任がT2となる。従来の担任が授業をしているところにT2の教員が加わる。

②専任TT型

道徳専任教師がT1となり、学級担任がT2となる。学級担任がT1となることもある。

③ローテーションTT型

学年の教員全員がローテーションでT1となる。学年団の教員を中心に、複数教員がローテーションで組織的に道徳の授業を実施する。

(2) 3つの体制のメリットとデメリット

3つの体制を比較検証すると、どれも従来の担任単独授業よりもはるかに効果的であった。

どの授業もティーム・ティーチング（TT）で実施するため、授業を通じて中心発問をはじめ、展開についての相互の研修が行え、確実にねらいに沿った授業が実施できた。

検証結果

①学級担任TT型

学級担任が、道徳の授業を得意とする学級とそうでない学級との温度差が課題となる。複数教員の実施であるため、授業数の確保はできるが、T2で入った教員との授業参画の温度差が見られ、教員の指導力の向上や負担感の軽減にならなかった。

②専任TT型

専任を担当する教師が、指導力があり、道徳の授業が得意な教師がいる学年とそうでない学年との温度差が課題となる。授業数の確保はできるが、学級担任が専任教師に頼ってしまい、相互の授業力を高めるには不十分であった。

③ローテーションTT型

生徒にも教師にも最も好評な複数体制だった。教師は、一度の教材研究で複数回の授業を実施するため、授業準備にゆとりが生まれ、教材研究を深められる。前回の授業の反省を生かして他の学級で授業の再構築ができ、結果的に指導力が高まった。

また、持ち味の異なる教員同士が授業を共にし、省察する機会が得られた。

そして、教師の不公平感もなく、実施できた。

3. ローテーションTT道徳授業のすすめ

(1) ローテーションTT道徳授業の実際

3つの複数体制の授業を実施した結果、前述のとおり、ローテーションTT型が、最も効果的で生徒や教師にも好評な体制であった。

この結果を踏まえ、ローテーションTT道徳授業を継続して実施した。

ローテーションTT道徳授業の実施は、学年の教師全員が道徳の授業に参加するため、時間割編成が重要となる。その実施方法には、各学級の道徳授業時間をずらす方法と学年で統一した時間に行う方法とがある。ずらした場合は、多くの教員が1クラスに参加できる。統一した場合は、学級数分の週でT1が入れ替わる。また、より多くの意見を交流することを視野に入れ、学年全体での道徳授業も実施した。



ローテーションTT道徳授業

教員の道徳の時間の時間割

1・2年:学級担任TT型,
ローテーションTT型
3年:学級担任TT型,
専任TT型
ローテーションTT型

■…道徳プロジェクト
(火曜日 4校時)

年	種	氏名	科目	1年					2年					3年				
				1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1年	A	教員 A	国語															
	B	教員 B	理科															
	C	教員 C	体育															
	D	教員 D	音楽															
	E	教員 E	英語															
	F	教員 F	保健															
2年	G	教員 G	数学															
	H	教員 H	国語															
	I	教員 I	理科															
	J	教員 J	体育															
	K	教員 K	音楽															
	L	教員 L	英語															
3年	M	教員 M	道徳															
	N	教員 N	道徳															
	O	教員 O	道徳															
	P	教員 P	道徳															
	Q	教員 Q	道徳															
	R	教員 R	道徳															

(2) ローテーションTT道徳授業の効果

このようにローテーションTT道徳授業を実施してみると、授業を多面的に見ることができ、担任だけの授業では気付かなかった授業の改善点や、生徒のよさにも目を向けられた。それが評価にもつながると考えられる。

また、T2の役割には「教材の範読」「板書」「話し合い活動の補佐」「役割演技の参画」「時に発問」「T1の補佐やアドバイス」「生徒の観察」「T1との評価などの実施」などがあり、T2の参画により、多彩な授業展開が広がる。

そして、以下のような変容につながった。

生徒の感想

- 毎回、道徳の授業がわくわくした気持ちで授業に取り組むことができる。
- 一人の先生だとその先生だけの見方・考え方が伝わってしまうが、たくさんの先生だといろいろな考え方から学べる。
- その先生だからこそできる道徳の内容もあるので、いろいろなお話をきっかけに、自分の考え方の幅が広がる。
- いろいろな先生の考え方がわかる。飽きない。
- いろいろな先生がしてくれるので、楽しい。わかりやすい。
- たくさんの先生の授業から、自分の考え方も変わり、考える力が身につく。
- 先生によって授業の仕方が違い、飽きない。
- 先生みんなに、自分たちのクラスのことを知ってもらえるのでとてもよい。
- 先生によって教材の読み方や教材の使い方が違うのがよい。

教師の感想

- 各教員の担当時間がはっきり割り振られるので、責任をもって確実に実施され、他の内容に振り替えられることがない。
- 自分が中心になって準備する回数が減り、負担感が減少する。そして1回の準備に、余裕をもって時間をかけられる。
- 複数回授業を行えるので、修正を加えて改善しながら2回目以降を実施できる。
- 生徒の意見を上手にくみ取れないときに、もう一人の教員のサポートを得られるので心強い。
- 他の教員の授業を見て勉強できる。
- 複数の目で評価が行えるので、客観性が出る。
- 各自の得意分野を生かした授業ができる。
- 他の先生に見られるのは最初はプレッシャーだが、慣れると気にならなくなり生徒のためになる。

効果

- 教師自身、授業の仕方がわかってくる。
- 日常的に研修ができる。(中心発問の検討など)
- 授業準備にゆとりが生まれる。
- 同一教材で複数回授業が行えるため、教師の授業力が高まる。
- 教師同士の研修が日常的に行われることで、教師の「同僚性」が生まれる。
- 生徒理解が多面的に行え、生徒の行動の背景や価値観を学年の教員全員が把握できる。
- 評価を複数教員で行うことができ、生徒のよさを把握できる。

4. 道徳プロジェクトチームの設定

全校一体となって道徳教育を確実に推進するためには、要となるシンクタンク的な組織の構築が重要である。そこで実働的な組織として「道徳プロジェクトチーム」を設置した。

これは、校長の方針の下、道徳教育推進教師が中心となり、各学年の道徳担当教師等が、道徳の授業のPDCAを行うものである。この会は、週1回時間割(例：火曜日の4校時)の中に位置付ける。特に、年間指導計画の授業実施の進捗状況の確認を行う。そして、充実した授業実施・円滑な推進を図るため、教師が困っていることなどをボトムアップで吸い上げ、課題克服のための方策を考える。つまり、課題の具体的対応策を検討、提案、検証していくための、生きた躍動的な組織なのである。



プロジェクトチームの役割

- 道徳授業のPDCAの実施、進捗状況の確認
- 授業で困っていることの解決策を提案
- 話し合い活動の活性化の方策の提案
- 教員研修の実施(日常研修・企画研修の検討・提案)
- 部活道徳の実施(部活動ごとに道徳的価値を決め、実践を行い、価値について考える。)
- 家庭への道徳教育の啓発

特に、授業展開について課題となったのが、話し合い活動の活性化である。「『考え、議論する道徳』実現のために、生徒一人ひとりが『多くの価値に出会う』話し合い活動をいかに活性化するか。」この事項をプロジェクトチームがシンクタンクとなり、提案や研修を行うなど、授業改善のために不可欠な組織となった。

また、教員研修が効果的に行われるための、企画研修の提案を行った。

ローテーションTT道徳授業では、全教員が道徳の時間に関わっているため、研修に深まりが見られる。指導案を基に、全員が生徒の学びのよかったところや改善点などを協議し、よりよい授業の構築に向けて主体的に学べる機会となった。



5. 生徒の道徳系の設置

道徳の授業を教師と生徒が共に創る方策として、道徳の時間の世話をする「道徳係」の生徒を決めた。これにより、生徒にも道徳の時間の大切さを意識付けることができる。

道徳係の仕事

- 教室に掲示している道徳年間指導計画に基づき、連絡黒板に道徳の題材を記入する。
- 実施した授業日を年間指導計画に記入する。
- 教材、「私たちの道徳」、道徳ノートなどの配布や回収をする。

6. ローテーションTT道徳授業の成果



成果

- 確実に授業実施ができる。
- 「道徳の授業は確実に行うもの」という教師の意識変革ができる。
- 授業の方法がわかる。
- 楽しく学びがいのある授業となる。
- 生徒にとっては、道徳の授業が教科と同じに行われることが当然となり、「学びがいがある時間」になる。
- 生徒指導の効果が見られた。
- 学ぶ意欲の向上につながった。
- 部活動が充実した。
- 人権意識も高まった。(いじめ防止など)

ローテーションTT道徳授業を実施することにより、確実に道徳の授業を推進できた。この方法は、年度当初の指導計画や時間割を綿密に確認することがポイントである。また、経験豊かな教員から若手教員へ道徳の指導力を継承し、共に新たな指導法の研鑽を積むことも重要である。しかし、ベテラン教員の中にも道徳の授業をあまり実施できていない教員はいる。今まで道徳の授業に躊躇していた状況も理解しながら推進していくこと、教師が「同僚」として共に学び合える環境を創ることが大切である。その効用として、道徳の授業が上手になると教科指導も上手になる。

最後に、校長のリーダーシップがローテーションTT道徳授業の実施に必要不可欠である。ローテーションTT道徳授業を提案しても、学校運営の中心的なメンバーは担任以外であり、授業を忌避する傾向が強い。前述のとおり、担任だけに任せての道徳科実施は困難である。

つまり、校長を中心に一体となった全校体制の道徳教育推進が必要なのである。

「友情，信頼」 「よりよい学校生活，集団生活の充実」

友人

人は、自分一人では解決できそうにない問題を抱えているとき、誰に相談するのでしょうか。一番身近な家族かもしれません。しかし、親や兄弟に相談しづらいこともあります。そのときまず相談にのってほしいと願う相手は、たいていは友人です。

友人という存在はとても不思議です。他人なのに、家族と同じように、あるいは家族以上に身近な間柄になれます。中には、誰にも話せない秘密の悩みでも、友人になら打ち明けることができる人もいます。親友という言葉はそのような友人を指すのかもしれませんが、そして、そうした親友はいつもその人の心の支えになりうる人なのでしょう。

友人であるためには何が必要なのでしょう。親友の条件とはいったい何なのでしょう。

友情と信頼

友人の関係には、遊び仲間から親友に至るまで、いろいろな段階があるはずです。しかし、友愛や友情という言葉が示しているように、いずれの段階の友人に対してもある種の親愛の感情を抱いていることは間違

いありません。親しめない相手が友人になることはありません。同性異性を問わず、友人と一緒にいればそれだけで楽しい。私たちは、親しみを感じる友人（たち）と接しているだけで、幸せと言ってよい感情に含まれます。

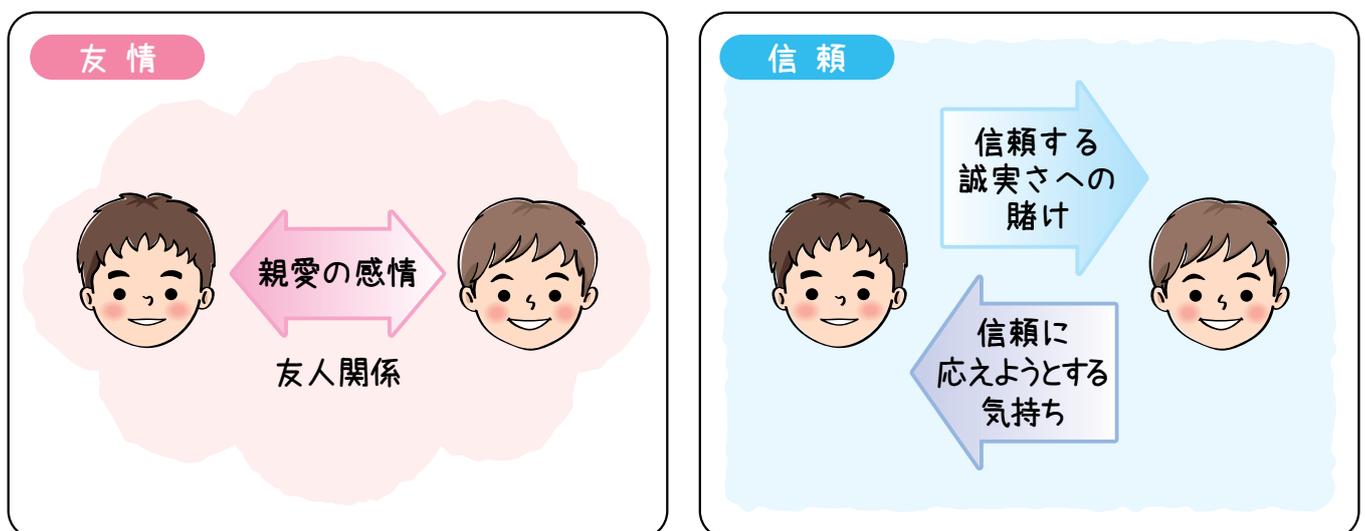
しかし、親友に近い段階の関係を、親愛の感情だけで説明することは困難です。多くの友人をもつ人でも、親友と呼ぶことのできる友人は限られています。実際、友人Aには自分の弱点や秘密を話せても、友人Bには話せないという経験は誰しも持っているはずです。その違いは何なのでしょう。

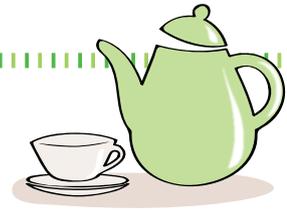
ひと言でいえば、信頼の深さなのでしょう。Aはその人にとって信頼に足る人だからこそ、たとえ恥ずかしいことでも、自分に不利なことでも、打ち明けることができるのです。私たちは好きになれない人を友人に選ぶとはしませんが、たとえ好ましい人であっても、十分信頼に値する人でなければ、親友と見なすことはないのです。

信頼と「賭け」

では、私たちは、信頼できる人かどうかをどのようにして判断しているのでしょうか。そもそも信頼に値

図1 友情と信頼





監修：プール学院大学 教授 越智 貢
共著：南山大学 教授 奥田太郎
福山平成大学 教授 上村 崇

する人々とそうではない人々が存在するわけではないでしょう。なぜなら、前述の友人Aがこれまでの交流の中でいくら信頼に足ることをしてきたとしても、厳密に言えば、これからも変わらず信頼を裏切らない人であるかどうかはわからないからです。つまり、信頼は常に裏切られる可能性を秘めています。にもかかわらず、友人を信頼して、自分の弱点をその人に告白するのだとすれば、私たちはそのときある種の「賭け」をしていると言ってよいでしょう。私たちは、その人が私たちを裏切らない、というその人の「誠実さ」に賭けているのです。

ただし、この賭けには通常の賭けとは異なったところがあります。信頼される側に「信頼に応え」ようと強い気持ちを生じさせるからです。友人から秘密を打ち明けられたとき、その秘密を漏らしてはならないと感じた経験をもっている人は少なくないでしょう。こうした信頼に特有な心理的メカニズムが、本来もろいはずの信頼を確固たるものにしていくのだと考えられます。

このように、信頼は道德とも結ばれています。誠実に欠ける人は、友情や友人から遠い人だと言わざるをえません。誠実さだけではありません。お互いを大

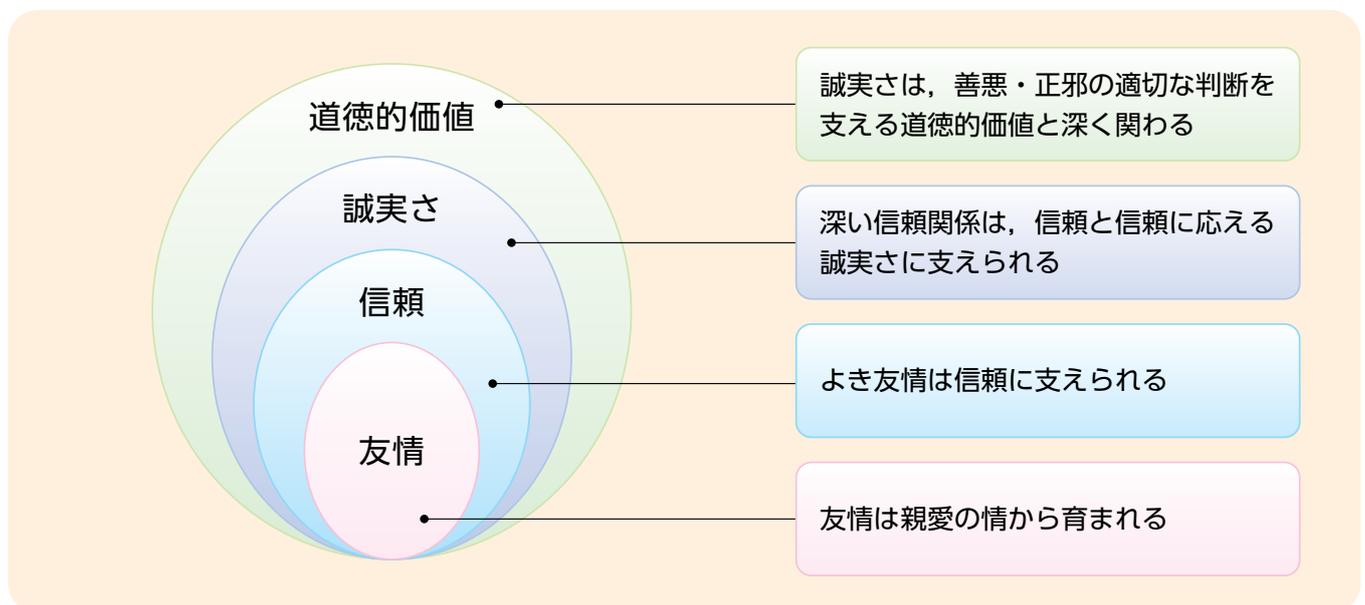
事に思い合う友人同士なら、どちらかが悪への誘惑を覚えたとき、それを叱咤し、諫めることも辞さないでしょう。友人関係が互いを磨き合い、高め合うことに、道德は深く関わっているのです。

学校生活の充実

信頼に支えられた友人をもつ人生は、そうでない人生よりもはるかに素晴らしいものになるに違いありません。「刎頸の友^{ふんけい}*」の故事にあるような、心を許し合える友人の存在がいつも憧れの対象とされてきたのはそのためです。そうした友人と出会う機会は、もちろん、至るところにあるでしょう。しかし、多くの同輩の集団の中で、ともに学び、遊び、語り合える学校生活が、生涯の友人と出会うことができる最適な場所のひとつであることは間違いありません。そして、そこで信頼に裏打ちされた友人を得ることができるなら、学校生活が、文字通り爽り多い生活となることも間違いのないのです。

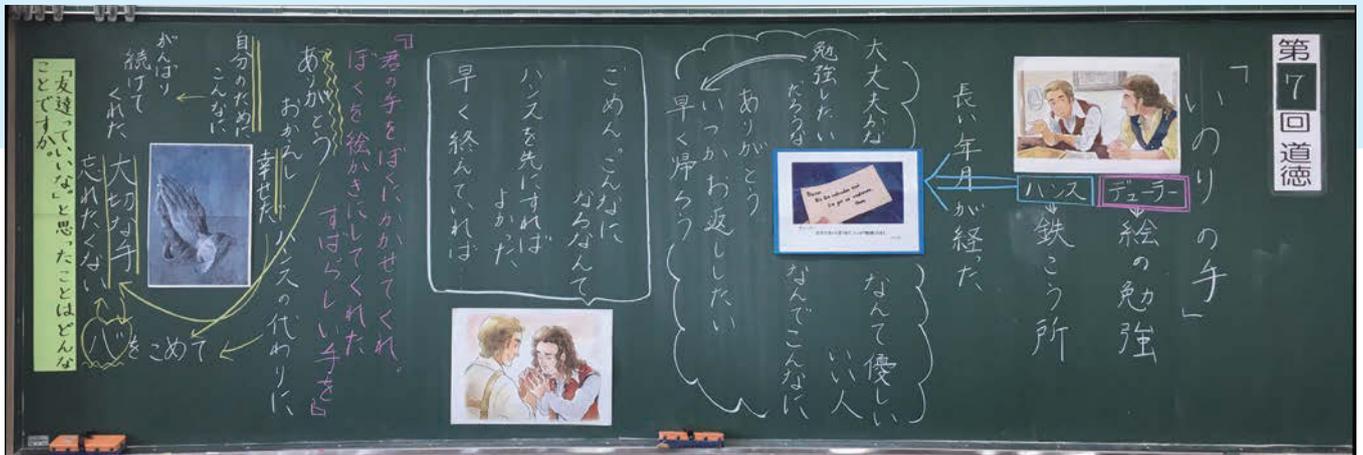
*^{ふんけい}刎頸の友……たとえお互いのために^{くび}頸を^は刎ねられても悔いはないというほどの親しい友人のこと。

図2 友情・信頼・誠実さ・道德的価値



心を揺さぶる教材との出会い ～教材「いのりの手」の実践を通して～

昭島市立武蔵野小学校 教諭 市倉 尚



1 教材との出会いを大切に

児童が道徳の時間を楽しみ、友達と語り合い、よりよい学びにつなげるためには、心を揺さぶる教材との出会いは不可欠です。児童と教材との出会いを大切にしたい工夫を報告します。

①教材提示はドラマチックに！

導入では児童の作品へのイメージを膨らませるために、「祈る手」の絵とハンマーを用意しました。「祈る手」の絵は、額縁に入れ、イーゼルに飾り、布をかぶせておきました。授業前から児童の関心を引きつけておくためです。また、ハンマーは事前に児童に握らせ、重さを実感させました。その上で、教材提示の途中で指導者が振り上げる動作を行えば、ハンズの苦労を想像する助けになると考えたからです。

教材提示は、プレゼンテーションソフトとプロジェクターを使って、スクリーンに場面絵を映します。そして、語り口調は穏やかに、児童の目を見ながら、ゆっくり教材を読み聞かせます。時には、指導者が作品の動作化をしながら教材を語ります。物語のクライマックスには、BGMを使い、雰囲気盛り上げました。

②図工の先生にも協力を！！

教材に出てくる「祈る手」を含めた作品やアルバムヒト・デューラーの説明を図工専科の先生にして

もらいました。専科の先生が作品や人物の紹介を行うことで、児童にデューラーが世界的に有名な画家であることを深く伝えることができると考えたからです。そうすることで、教材への関心や理解が深まり、児童が教材の世界に浸りやすくなると思いました。

2 本時の評価

- ハンズの友情に応えようとするデューラーの気持ちを自我関与して考えることができたか。(中心発問)
- 友達のかけがえのなさに気づき、その存在を大切にしていこうとする心情をもつことができたか。(道徳ノート等)

3 考察

教材提示に際して、事前に何度も教材を読み、暗唱できるほどになりました。そのため、児童の顔をじっくり見ながら余裕をもって教材提示を行うことができました。どの子の顔も真剣に画面を見つめていました。多くの児童が、授業中の発言に意欲的になりました。

4年生の終了時に、「道徳の時間で心に残った教材は？」と聞くと、多くの児童から、「いのりの手」という声があがりました。

展開例

内容項目：B「友情，信頼」

主題名 大切な友達	ねらい 友達と互いに理解し，信頼し，助け合う心を育てる。
教材名 いのりの手 (日本文教出版)	ハンスの友情に応えようとするデューラーの気持ちを，自分との関わりで考えることで，友達のかけがえのなさに気づき，その存在を大切にしていこうとする道徳的心情を育てる。

導入

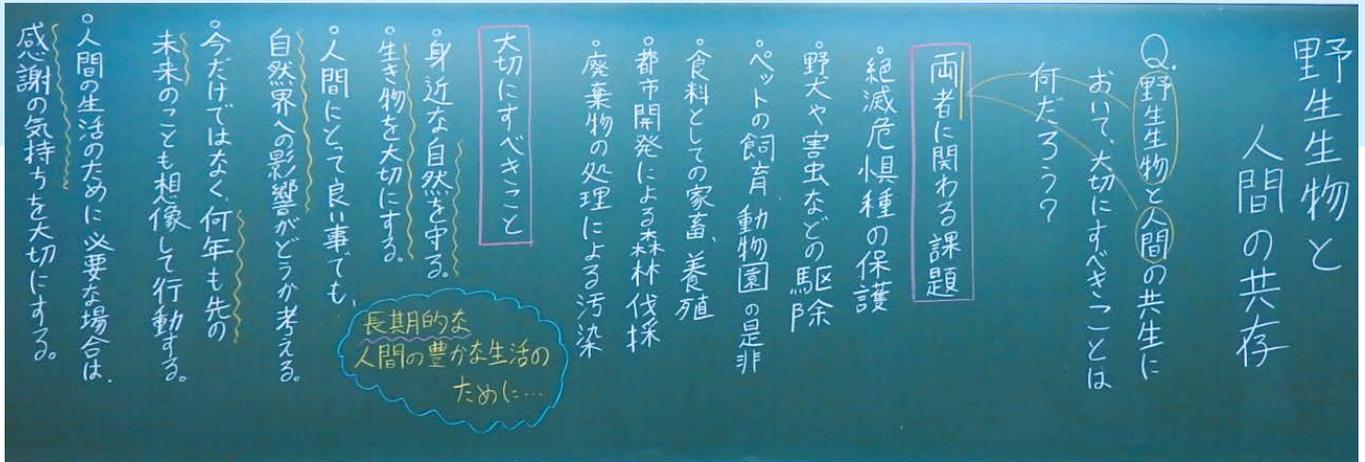
展開

終末

学習活動(◎中心発問，○主な発問，・予想される児童の反応)	◇指導上の留意点 ☆評価
<p>1 教材への導入を図る。</p> <p>○この絵の手は，どんな人の手だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 祈っている手。 ・ 何かをお願いしている手。 ・ 何かをつかもうとしている手。 ・ 外国人の手。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「祈る手」の絵画を提示する。 ◇図工専科の先生に，「祈る手」「アルブレヒト・デューラー」「代表作」についての専門的な説明を受けることで，教材への関心を高める。
<p>2 教材「いのりの手」を読み，話し合う。</p> <p>○「自分でよいと思うまで，しっかり勉強したまえ。」という励ましの手紙とお金をもらった時，デューラーはどんなことを考えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いつもぼくのためにありがとう。(日頃の感謝) ・ なんでぼくのためにこんなにしてくれるのだろう。(疑問) ・ ハンス，なんていい人なんだ。(ハンスへの称賛) ・ ハンスの手紙に勇気をもらった。もっと頑張ろう。(鼓舞する気持ち) ・ ハンスは本当は勉強したいだろうな。申し訳ない。 ・ なかなか代われない。ごめん。(謝罪) ・ 大丈夫かな。(心配) <p>○ハンスの手をにぎりしめたまま，おいおいと泣きだしたデューラーはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こんな手になってしまったのか。(事実を知ったことへの驚き) ・ ぼくは，もっと早く帰ってくるべきだった。君の夢を奪ってしまった。何てことをしてしまったのだ。(後悔・反省) ・ 許してくれ，ハンス。(謝罪) ・ こんな手になるまで，ぼくのために働いてくれていたのか。この手のおかげで，ぼくの成功があったのか。ありがとう。(感謝) <p>◎デューラーはどんな気持ちを込めて，ハンスの手を描いたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくを助けてくれたこの手を忘れないように絵を描こう。(友情) ・ この手のおかげで，ぼくの成功があった。(感謝) ・ こんな手になってしまったのか。ぼくのせいだ。ごめんなさい。(謝罪) ・ ぼくは，もっと早く帰ってくるべきだった。(反省) ・ 君の夢を奪ってしまった。(後悔) ・ 絵が描けなくなったハンスの代わりに絵を描いていこう。(決意) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇教材提示前に登場人物を簡単に紹介し，デューラーの気持ちになって話を聞くように伝える。 ◇教材提示は，ICT機器を使って指導者の語りによって行う。 ◇初発問は，児童による相互指名で行う。 ◇勉強し始めてから，長い年月がたったという事実を押さえた上で発問を行う。 ◇ハンスへの感謝の気持ちがあることを確認する。また，この時のデューラーのもっと勉強していたという気持ちにも同時に気付かせる。 ◇第2発問に入る前に，「ごつごつした手」ではどうして絵筆がもてないのか想像させる。 ◇ハンスがデューラーのために夢をあきらめた事実を押さえる。 ◇第2発問は教師が意図的に指名する。 ◇デューラーの罪悪感による自分の行いへの後悔の念や，謝罪の気持ちがあったことを想像させる。 ◇謝罪の考えに対して，「ハンスは怒っているのか。」と問い返すことで，心が満たされているハンスの気持ちを想像させる。 ◇児童の発言に，「デューラーがハンスの手をなぜ題材としたのか。」と補助発問することで，デューラーのハンスへの思いをより考えさせることができる。 ☆ハンスの友情に対し，少しでも自分ができることを誠意を込めて行おうとするデューラーの気持ちを自分との関わりで考えることができたか。(発言)
<p>3 自分の友達について振り返る。</p> <p>○友達の事を思い出してください。「友達っていいな。」と思ったことは，どんなことでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽クラブで友達になった子は，楽器が壊れたら直してくれたり，楽器洗いの時はどこに何を塗ったらいいのか教えてくれたりして，嬉しかったです。中学生になってもずっと友達でいたいです。そして，その友達に教えてもらったことを，これから入ってくる3年生に教えてあげられたらいいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇道徳ノートを活用し，学習の積み重ねを大切にします。 ◇相手の何かしらの行為や気持ちに対して，何か返してあげたいという振り返りを行っている児童を指名し，発表させる。 ☆友達のことを振り返り，その大切さについて考えることができたか。(道徳ノート)
<p>4 教師の説話を聞く。</p>	

仲間と考え、議論することで 深まる道徳授業の実践

おおさわ学園三鷹市立第七中学校 主任教諭 沖山 篤史



1 はじめに

近年の急激な科学技術の発展により、人間にとって生活しやすい環境が年月の経過とともに整えられている。しかし、その陰で自然が破壊され、野生生物にとっての生活環境が悪化の一途をたどっているという事実から目を背けてはならない。現在を生きる世代だけではなく長期的な人類の豊かな暮らしのために、私たちは地球規模で考えた持続可能な社会を目指さなくてはならない。今生徒たちができることは限られているが、これからの未来を担う彼らにとって、現状の課題を把握し、自然環境の保全について考えを深めることは必要不可欠である。

また、自然界における生物の淘汰はこれまでも繰り返されており、生物の生存競争を鑑みるに仕方がないことである。しかし、外来種や乱獲といった人間の行為が原因となって生物の絶滅が急増していることも事実であり、前者とは分けて考えなければならないものである。

多様な生物の存在は、生物学的な研究の価値のみならず、食や観光などさまざまな面で私たちの生活そのものを豊かにする。その点を理解したうえで生物の多様性の確保を肯定的にとらえ、積極的に自然環境を保全しようとする姿勢をもつことが大切であると考え、本時の授業を設定した。

2 授業展開と教材について

本教材は、著者が獣医師の立場から野生生物と人間の共存についての考えを述べたものである。一読すると、「自然愛護」よりも「相互理解、寛容」といった内容項目が思い浮かぶ内容でもあるが、科学技術の発展と自然環境の保全との折り合いをどこでつけるかという、現状の課題について考えを深めるためには適切な教材である。また、「相手の立場になって考え、話し合うことが大切」といった教材の内容に基づき、中心発問に対して考える前に、野生生物と人間との間に生じる課題を明確にし、多面的・多角的にとらえたいうえで自分の意見をもつように指導展開を工夫した。

また、教科化に伴った今後の道徳の授業展開として、考え、議論することも大きなポイントとなっている。そのため、中心発問は多様な意見が出るようなオープンクエスチョンにし、4～5人の班で議論することを授業計画の基本としている。他者と意見交換をすることで、自分の考えが深まったり、変容が見られたりすることが期待できる。しかし、普段行っていない中でいきなり「議論」といっても生徒は対応できず、個人の意見を発表して終わってしまうことも多い。そのため、今回の授業に限らず毎回の授業で議論を交わす場面をつくり、習慣化させることで、生徒の話し合う力を培っていく必要がある。

展開例

内容項目：D「自然愛護」
 (関連項目：D「感動、畏敬の念」、
 B「相互理解、寛容」)

主題名 野生生物と人間の共存	ねらい 自然環境を大切にすることの意義を理解し、自然と人間とのつながりや共生について取り組もうとする実践意欲と態度を育む。
教材名 立場の異なる人と同じゴールを見付け出す (「私たちの道徳 中学校」文部科学省)	

	学習活動(◎中心発問, ○発問, ・予想される生徒の反応)	指導上の留意点(◇) 指導上の工夫(◆)
導入	1 ねらいとする価値を意識する。	◆本日の主題「野生生物と人間の共存」を伝える。
展開	2 教材「立場の異なる人と同じゴールを見付け出す」を範読する。 ◎資料を読んで感じたこと、考えたことを発表しよう。 ・獣医にも色々な仕事があるんだ。 ・意見が違う人に思いを伝えるには、相手の立場になることが大切だ。 ・人間の生活だけを考えると野生生物に影響があるのか。	◆教材を範読する。 ◇後半の話し合いの時間を確保するため、ワークシートへの記入は簡易的なものでよい。 ◆何名か指名して発表させる。
	3 教材から離れ、主発問について考える。 ◎野生生物と人間に関わる課題は何だろう。 ・絶滅危惧種の保護。 ・野犬や害虫などの駆除。 ・ペットの飼育、動物園の是非。 ・食料としての家畜、養殖。 ・都市開発による森林伐採。 ・廃棄物の処理による汚染。 ◎野生生物と人間の共生において、大切にすべきことはなんだろう？ ・地球全体のことは難しいが、身近な自然を守ったり、生き物を大切にしたりしていくことが大事。 ・自然界にどのような変化が起きてしまうのかを考えて行動しなければならない。 ・人間の暮らしのためには野生生物や自然環境にしわ寄せがいくのは仕方ない。でも、思いやりの心や、感謝の気持ちをもつことが必要。	◆中心発問について考える前に、野生生物と人間に関わる課題を、キーワードとして考えさせる。 ◆ヒントを与え、生徒にキーワードを答えさせる。 ◆キーワードをふまえながら、中心発問について個人で考え、ワークシートにまとめる。 ◆班を組み、発問について議論する。 ◆各班で出た意見を全体で共有する。 ◇それぞれの課題についての議論も大切であるが、広い視点で発問について考えることを中心とする。 ◆まずは発問について意見交換させるが、その後、時間に応じて個々の課題について議論させてもよい。 ◆発表された意見を板書にまとめる。
終末	4 教師の説話を聞き、本時を通して感じたこと、考えたことをワークシートにまとめる。 ◎今日の授業で感じたこと、考えたことをまとめよう。 ・人間が主役という考えではなく、他の生物のことも考えて生活していきたい。 ・自分たちにできることから少しずつ自然環境を守る活動をしていきたい。 ・違う立場になって考えることの難しさや大切さが分かった。 ・自分たちの子どもや孫の世代でも、変わらず豊かな地球のままにしていきたい。	◇ここ数年で生物が絶滅する要因のほとんどが「人口増加」「外来種」「乱獲」「地球温暖化」の4種であり、どれも人間が関わっているものであることを押さえる。 ◇我々の世代だけでなく、長期的に人間が豊かな生活を送るためにも、生物の多様性を確保し、持続可能な社会をつくるのが大切であることを確認する。 ◆何名か指名して発表させる。

こんなとき、どうする？

今回の
テーマ



「道徳と国語はどこが違うの？」

子どもたちと接する中で出てくる、「こんなとき、どうする？」。
道徳教育をより輝かせるためのヒントを、先生方に教えていただきました。



ねらいが違う

千葉市立轟町小学校
校長 尾高正浩

結論から言えば、ねらいがそもそも違います。道徳科のねらいは、教材を通して道徳性を養うことですし、国語科のねらいは、教材を正確に理解することにあります。つまり、道徳科で国語のような授業になってしまうのは、文章の言葉だけを採るような授業を指しています。道徳科は文章の言葉だけでなく、登場人物に共感しているいろいろな思いを自由に発言できる時間です。言い換えれば、文章を読むだけでなく、行間を読む時間とも言えます。自由に想像して発言する中で子どもたちは自分を振り返り、友達と意見を交わすことで多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めていくのです。そのためには、わかりづらい長文の教材が不適切なのは言うまでもありません。

3点あると思っています

京都市立二条中学校
校長 澤田清人

若い先生からよく尋ねられる質問です。私は、次の3点だと考えています。

1つめは正解についてです。国語では、必ず問いに対する正解があり、それを文章中に求めます。一方、道徳は思いや考えを答えることが多いので正解がないという人もいますが、深く考えた答えはすべてが正解です。2つめは文章（教材）の読み方です。国語ではストーリーを追って読み進めるのが一般的ですが、道徳では教材全体を感じとりながら、一点に集中して読み、深く考えます。ここが中心発問の部分です。3つめは目的です。国語では文章を理解し楽しむことが目的なので、その文章から離れて考えることはありません。一方、道徳では道徳的価値を態度化・行動化することが求められます。学習内容を自らの生き方に反映させることが目的です。

国語教育と道徳教育の違い

宮崎大学
准教授 椋木香子

私なら「登場人物の気持ちや考えを文章中から読み取る力をつけるのが国語、自分が登場人物の立場だったらどう感じ、考えるかをクラスみんなで話し合い、いろんな考え方や対応の仕方を知って、実際に自分が同じような場面に立ったときに、判断や行動の参考にするために学ぶのが道徳」と答えます。国語も道徳も「登場人物の気持ちを考えさせる」という点では同じように見えますが、目的がまったく異なります。道徳では「この時の主人公はどんな気持ちだっただろう」と問うても、子ども達は自分の経験をもとに、主人公の立場になって考えているのです。ですから、感じる気持ちが子どもによって異なることもあります。その違いを認め共有していくことが、子どもの多面的・多角的な見方・考え方の育成につながるのです。



地球の仲間からの メッセージ

元大阪市天王寺動物園 園長 長瀬 健二郎

動物園の使命

現代の動物園はさまざまな使命を負っています。飼育している動物を見ていただいて世界中にどんな動物がいるか、そしてその動物がどのような環境で生活しているかを知っていただくことも大切な仕事です。また、環境破壊の結果、危機的な状態にまでその生息数を減らしてしまった動物を繁殖させ、自然に戻すことも大切な仕事です。その意味で今年は日本の動物園にとって画期的な年でした。

ご存知の方も多いかと思いますが、ニホンコウノトリは戦前には日本各地で普通に見られる鳥でした。しかし戦時中、巣をかけるための松の大木が、油を取るために次々と切り倒され、営巣場所を失いました。戦後の食糧不足の時期には、食用にするため殺され、復興期には、食糧増産のために使われた農薬によって、エサとなる魚やカエルが激減してしまいました。人々が生き抜くために、繁殖する場所を奪われたうえ、狩猟の対象になり、エサまで奪われたニホンコウノトリは、その生息数をどんどん減らしていきました。

国内最後の個体が残った豊岡市のある兵庫県では、ニホンコウノトリを県鳥と定め、「コウノトリ飼育場」（後の「兵庫県立コウノトリの郷公園附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター」）を建設し、自然復帰に向けて飼育を始めました。旧ソ連から譲り受けた幼鳥6羽もここで飼育されました。飼育場での飼育や繁殖の成功に向け、日本各地の動物園が協力したことは言うまでもありません。天王寺動物園では飼育方法のアドバイスのみならず、園で繁殖した個体を飼育繁殖の



▲抱卵中のニホンコウノトリ

研究のため提供しました。こうした協力もあって、順調に飼育個体数は増え、平成17年9月に5羽のニホンコウノトリを野生に放すことができるまでになりました。その中には天王寺動物園で繁殖した2羽も含まれています。そして2年後の平成19年には自然復帰したペアから1羽のヒナが孵化し巣立ちました。自然復帰二世の誕生です。最後の野生個体が繁殖して以来、実に46年ぶりの快挙でした。その後、繁殖は順調に進み、とうとう今年の6月、野外での100羽目の繁殖に成功したのです。

これでニホンコウノトリが日本の空への復帰に成功した、とはまだ断言できませんが、目途がついた感があります。ここに至るまで兵庫県の関係者の方々の不断の努力があったことは間違いありませんが、同時に動物園の協力も大いに貢献していることは胸を張ってお知らせできるのではないかと考えています。

道徳と日文 これまでも、これからも



文部科学省検定済教科書
小学校道徳科用

小学道徳 生きる力 1～6年

- 各学年道徳ノート付き。
- 研究編、朱書・板書編、デジタル教科書、デジタルデータ集からなる教師用指導書完備！



「昇太師匠と考えよう」

日文 Web サイトにて動画配信中！

「笑点」の司会やドラマなどで活躍中の落語家、春風亭昇太師匠が伝統文化や友情について子どもたちと語り合います。
ただ今、日本文教出版Webサイトで「受けついでいくもの編」「落ちこんだとき編」など全5編を公開中。道徳の時間にクラスで視聴するなど、ぜひご活用ください。

中学校道徳 副読本

新 あすを生きる 1～3年

- 「いじめ」「安全教育」「情報モラル」など、「特別の教科 道徳」で重視される題材を豊富に掲載！
- 「多面的・多角的」に考えられるように、文章が平易で、身近な内容の資料を精選！
- 付録「ワークシート集」「教師用 DVD-ROM」で、「あっ」という間に準備ができる！
- 「問題解決的な学習」等をサポートした指導書で、「あっ」と言わせる授業ができる！



どうとくのひろば No.18

日文教育資料[道徳]

平成29年(2017年)10月20日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

デザイン:モスリンググラフィック

CD33372

日本文教出版 株式会社 <http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F-B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690